

第1章 「新入生調査」の結果

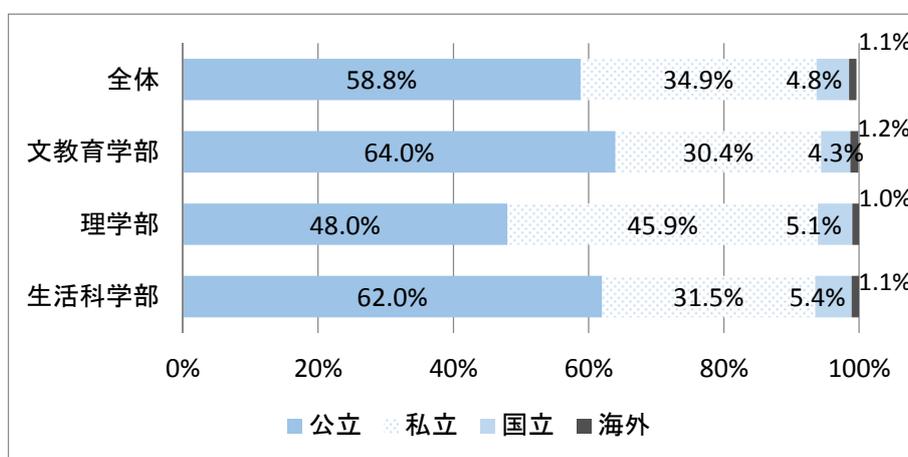
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科、④所在地を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表 1-1 に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

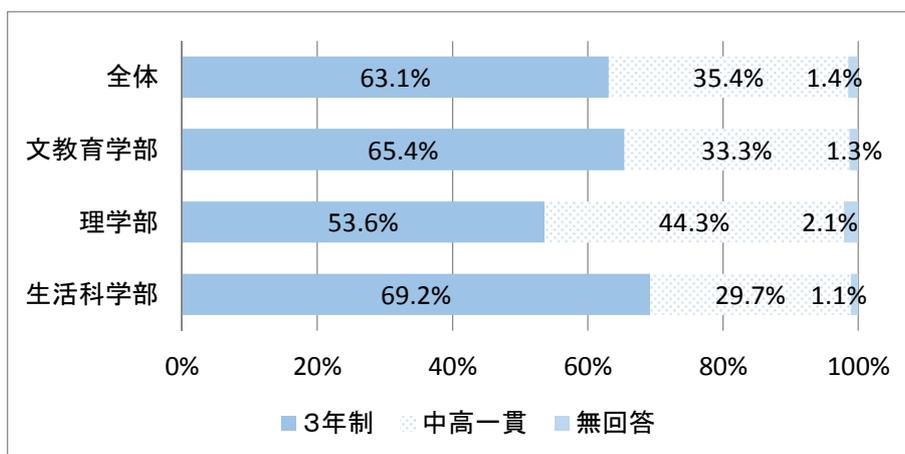
全体では、「公立」58.8%、「私立」34.9%、「国立」4.8%、「海外」1.1%であった。学部別では、文教育学部と生活科学部は「公立」の割合が高く、64.0%と62.0%である。この傾向は、平成27年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2016）。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

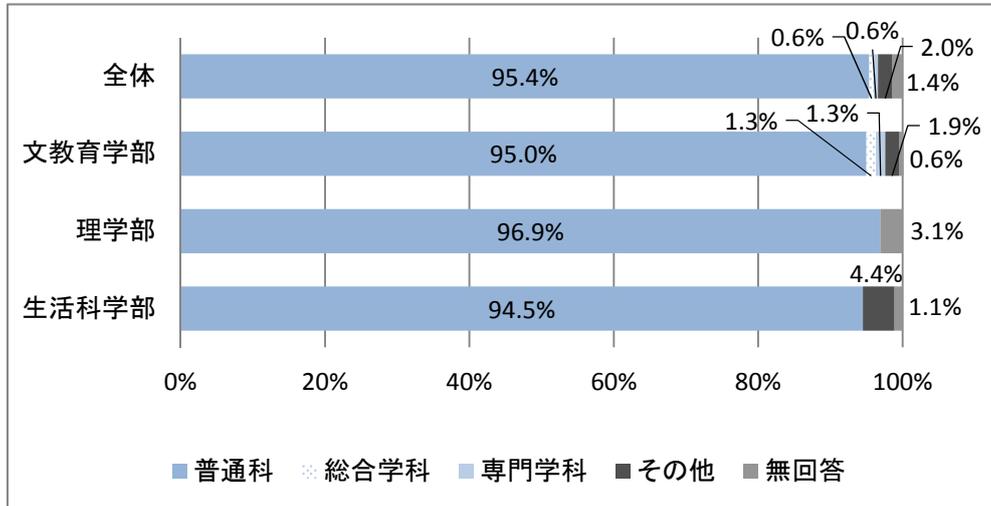
図表 1-2 に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が63.1%、「中高一貫」35.4%と昨年とほぼ同様であった。学部別では、生活科学部が「3年制」の割合が高く69.2%である。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

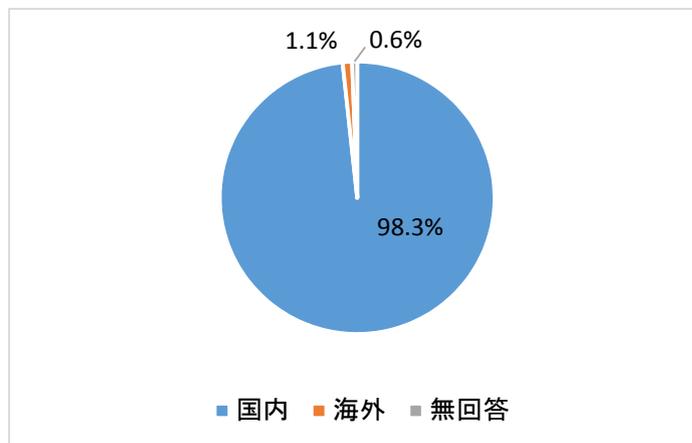
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）」「総合学科」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す。全体の 95.4%が「普通科」であり、学部別でも大きな差異はない。今年度の新入生には文教育学部に「総合学科」「専門学科」の出身者が見られた。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の 98.3%が「国内」であり、1.1%が海外の高校を卒業している。



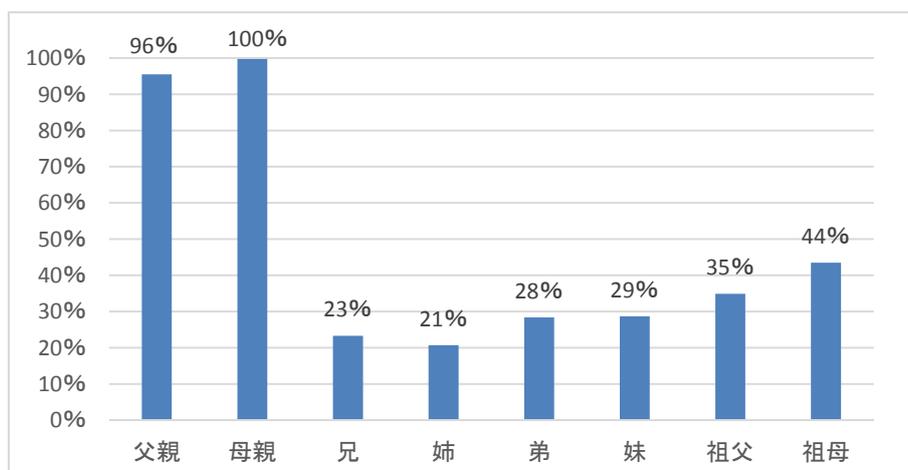
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数、③私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数について示す。

① 家族の構成

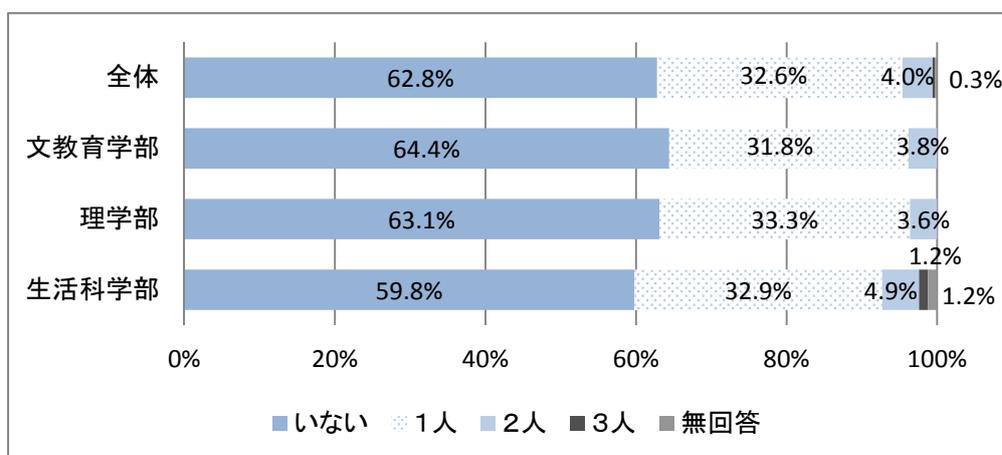
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。今年度の新入生の家族構成は、全体でも学部別でも平成 27 年度新入生と大きな差異は見られなかった。また「一人っ子」は全体の 15.6%であった。平成 27 年度の 16.5%、平成 26 年度 17.2%と並んで、高い傾向は変わらない。



図表 2-1 家族構成

② 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-2 は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）を尋ねた結果である。全体の 62.8%が「いない」、「1人」は 32.6%、「2人」が 4.0%である。平成 27 年度も同様の傾向であった。

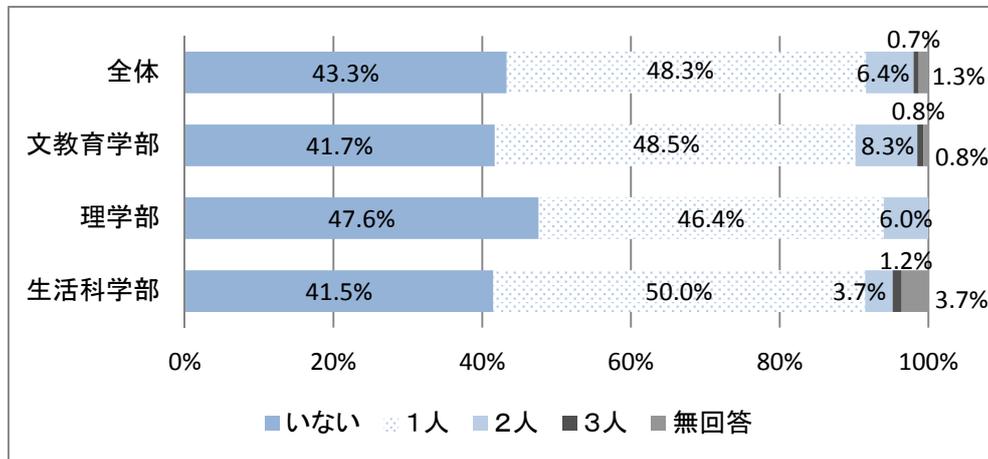


図表 2-2 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

③ 私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-3 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）について尋ねた結果である。

全体の 43.3%が「いない」、48.3%が「1人」、6.4%が「2人」であり、学部により大きな差異は見られなかった。平成 27 年度および平成 26 年度新入生とほぼ同様の傾向がみられた。



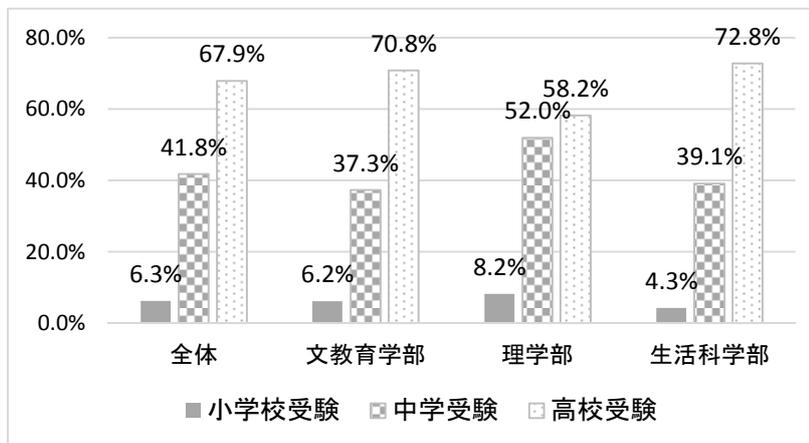
図表 2-3 私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

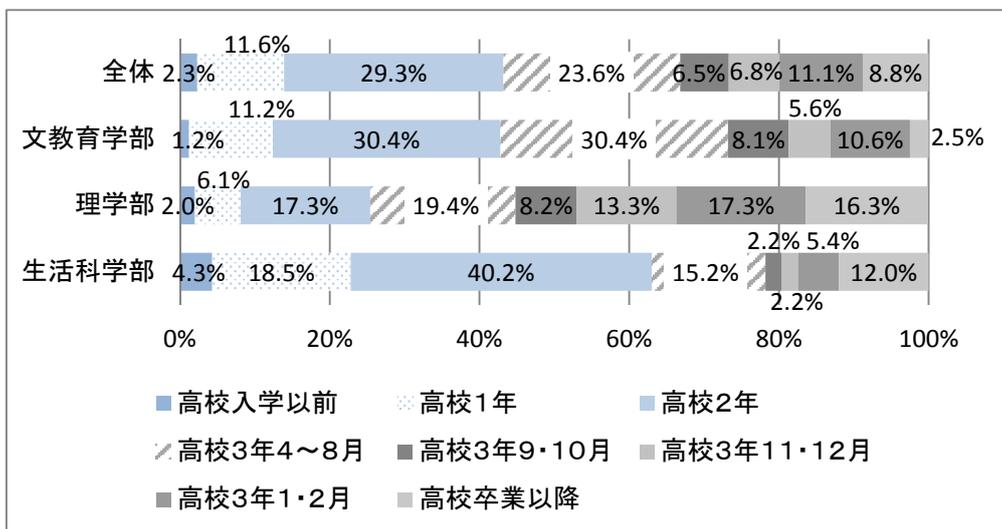
図表 3-1 は、中学校の受験の経験について尋ねた結果である。全体の 6.3%が小学校受験を、全体の 41.8%が中学受験を経験している。高校受験は全体の 67.9%が経験している。この傾向は、平成 27 年度新入生でも同様に見られる。「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査」(Benesse 教育研究開発センター 2013)における大学生の中学受験経験率は 27.8%と比較すると、本学の新入生の中学受験経験率は高い方に偏っている。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

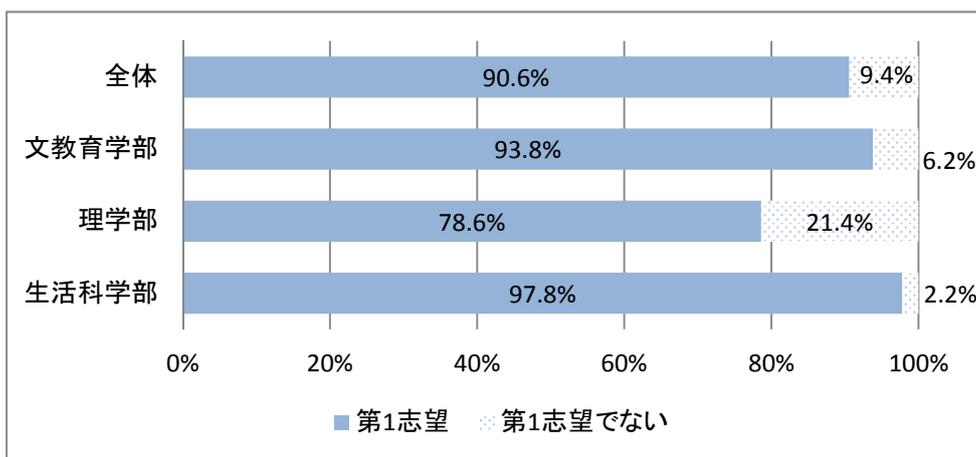
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」が 29.3%と最も高く、「高校 3 年 4～8 月」23.6%がそれに続いている。学部別では、理学部に高校 3 年の 9 月以降に本学の受験を決めた割合が多いことが特徴である。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 90.6%の新入生が本学を第一志望としており、昨年度 87.8%より 2.8 ポイント程度増加した（お茶の水女子大学 2016）。学部別では、理学部での第一志望の割合が 78.6%と他の学部より低い。2016 年度新入生の特徴は、生活科学部での第 1 志望の割合が 97.8%と非常に高いことである。



図表 3-3 本学の第一志望の度合

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

「浪人」は全体で 16.8%であり、「この中にはない」が全体の 74.1%である。浪人は平成 27 年度では 14.1%で、今年度は 2.7 ポイント増であり、すべての学部で浪人の占める割合が増加した。

学部別では、浪人の割合が異なり、文教育学部が 11.2%、生活科学部が 17.4%であるが、理学部は 25.5%と昨年度に続いて多いことが特徴である。

図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

—	他の高等教育機関入学	浪人	海外留学	この中にはない	無回答
全体	1.7%	16.8%	0.3%	74.1%	8.5%
文教育学部	1.2%	11.2%	0.0%	79.5%	9.3%
理学部	3.1%	25.5%	1.0%	65.3%	8.2%
生活科学部	1.1%	17.4%	0.0%	73.9%	7.6%

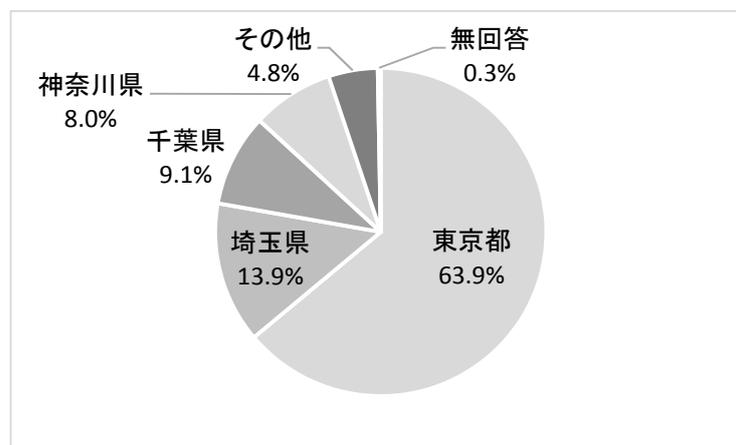
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定についての調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦希望するアルバイト活動、⑧授業料の負担予定、⑨大学生活での不安・心配事、⑩本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

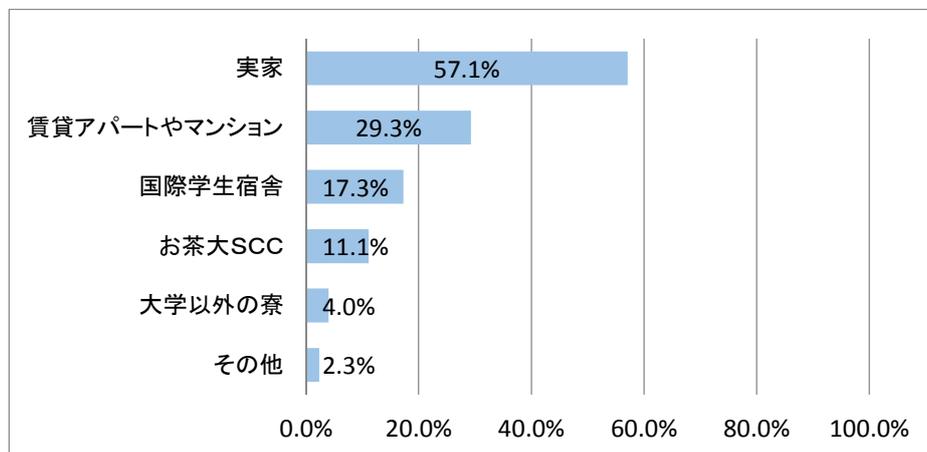
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 63.9%と最も高く、埼玉県、千葉県、神奈川県と続いている。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

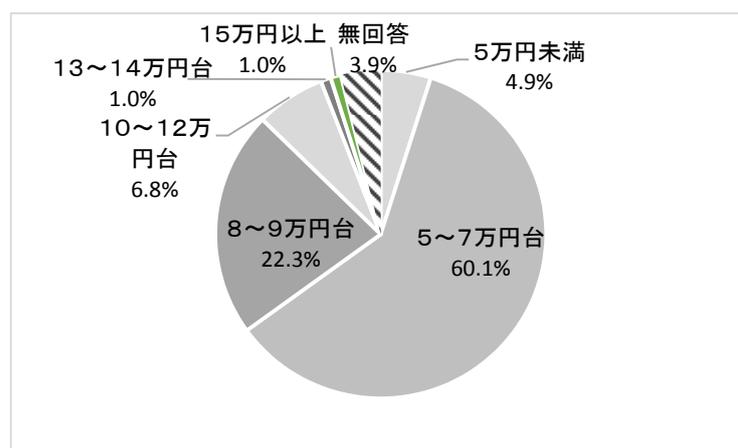
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「実家」が約 57.1%を占め、次いで、「賃貸アパートやマンション」29.3%、「国際学生宿舎」17.3%、「お茶大 SCC」11.1%といった学生寮が続いている。この結果は平成 27 年度新入生とほぼ同様の傾向である（お茶の水女子大学 2016）。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7 万円」が 60.1%と最も多く、次いで「8～9 万円」22.3%である。両者を合わせると約 8 割の学生が 1 か月の家賃として 5～9 万円を予定していることがわかる。平成 27 年度新入生では「5～7 万円」は 51.6%、「8～9 万円」は 28.6%であったことから平成 28 年度新入生の家賃の予算はやや低くなる傾向にある。（お茶の水女子大学 2016）。

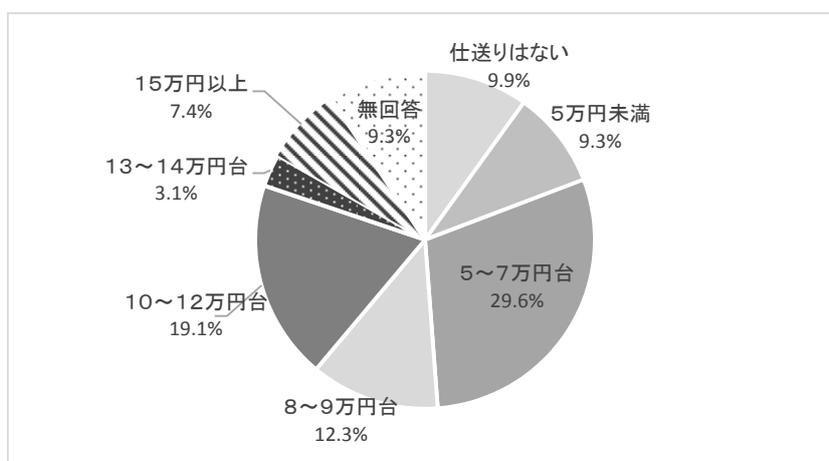


図表 4-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7万円」が 29.6%と最も多く、次いで「10～12万円」19.1%という結果である。一方で「仕送りはない」9.9%を含め、仕送り予定が 10 万円未満の学生は 61.1%である。「仕送りがない」新生は、昨年度は 4.8%であったが今年度は 1 割程度見られた（お茶の水女子大学 2016）。

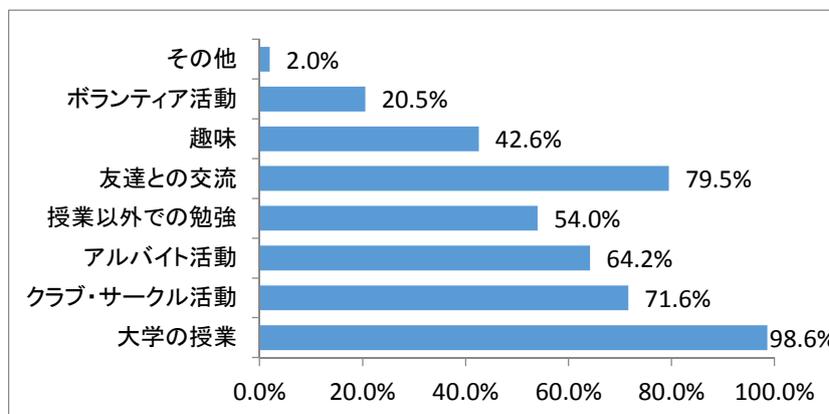
なお「第 50 回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会 2015）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が 5～10 万円の学生は 36.2%と最も多く、仕送り 10 万円以上 29.3%を超えている。一方、仕送り 0 の割合は 8.8%、5 万円未満は 23.8%である。この調査と本調査を比較すると、自宅外に居住する学生の仕送り金額は、全国の大学生の水準とほぼ同様であるといえる。



図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

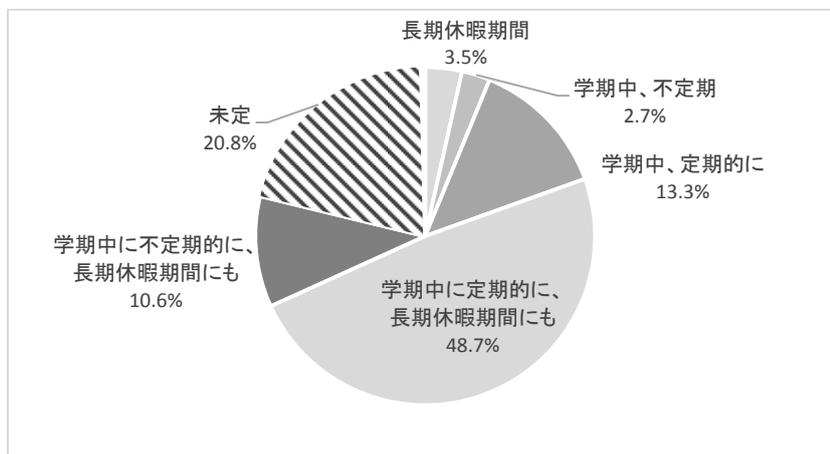
図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 98.6%と最も高い。続いて、「友達との交流」79.5%、「クラブ・サークル活動」が 71.6%と全体の 7 割を超えている。これらの傾向は、平成 27 年度新生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

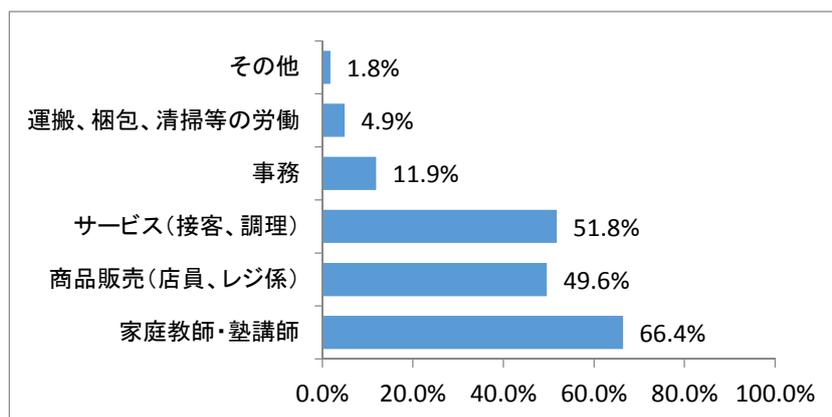
図表 4-6 は、入学後のアルバイト活動の予定について、その予定のある者に対して尋ねた結果である。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」48.7%である。「未定」が全体の20.8%を占める。学期中に定期的なアルバイト活動を予定している学生は約 6 割であり昨年同様である。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 希望するアルバイト活動

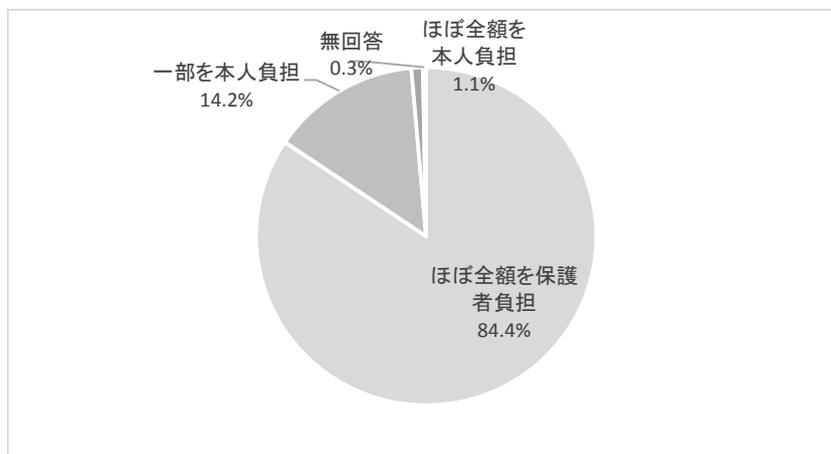
図表 4-7 に「入学後、この 1 年で頑張ろうと思う活動」として「アルバイト活動」に回答をした者に希望するアルバイト活動を複数回答可として尋ねた結果を示す。「家庭教師・塾講師」66.4%が最も多く、次いで「サービス（接客、調理）」51.8%、「商品販売（店員、レジ係）」49.6%となっている。



図表 4-7 希望するアルバイト活動

⑧ 授業料の負担予定

図表 4-8 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 84.4%である。「一部を本人が負担（奨学金、アルバイトなどを含む）」は、14.2%であった。今年度の傾向は、平成 27 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。



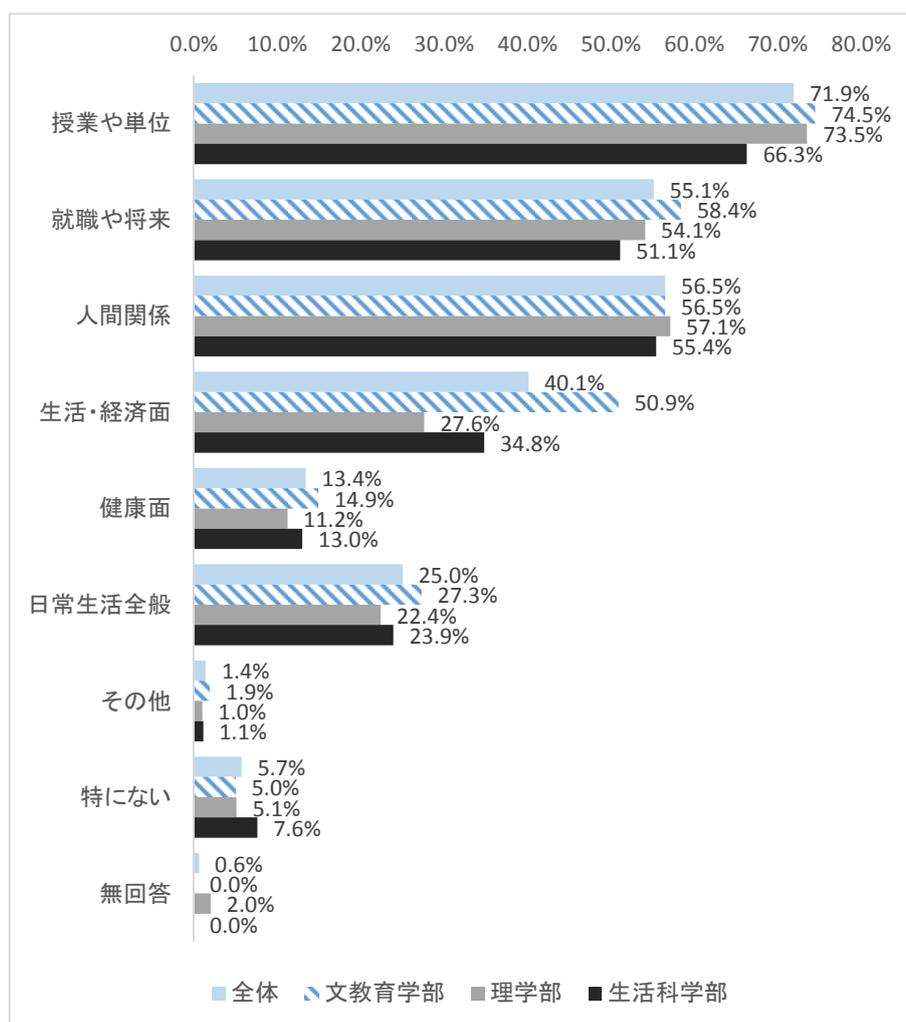
図表 4-8 授業料の負担予定

⑨ 大学生活での不安・心配事

図表 4-9 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

「特にない」は全体の 5.7%であり、学部別では生活科学部では 7.6%と高い。平成 27 年度は理学部が最も「特にない」と回答した割合が高かった（お茶の水女子大学 2016）。

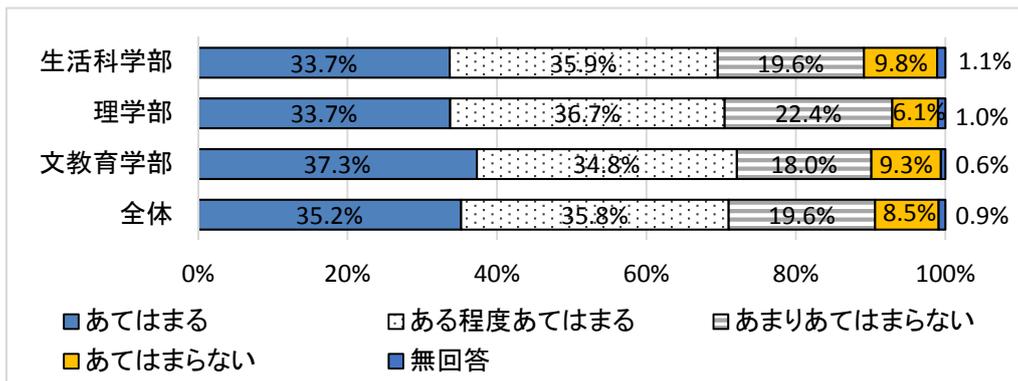
最も多い項目は「授業や単位」が全体の 71.9%であり、「人間関係」56.5%、「就職や将来」55.1%がそれに続いている。これら上位 3 項目の割合は例年ほぼ同様である。学部別では、文教育学部は「就職や将来」58.4%と「生活・経済面」50.9%と他学部より高いという結果であった。



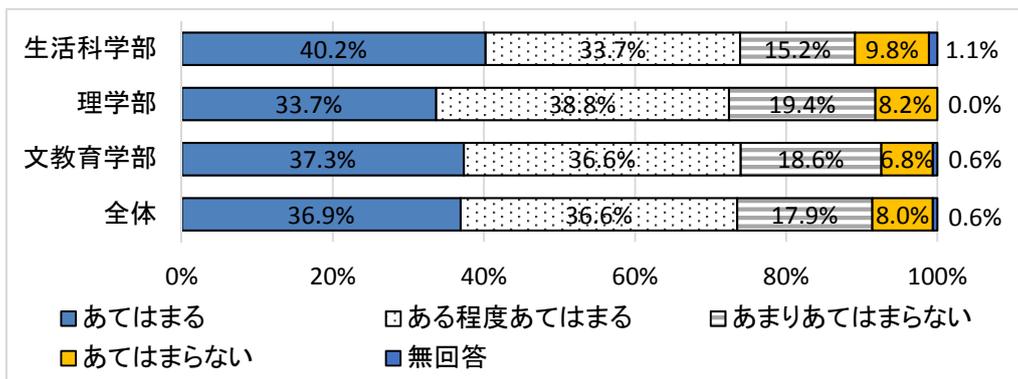
図表 4-9 大学生活が始まって心配なこと

さらに大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ち 8 項目について 4 件法で回答を得た。そのうち、「あてはまる」「ある程度あてはまる」として回答した割合が 70%を超えた 4 項目を図表 4-10 から図表 4-13 に示す。

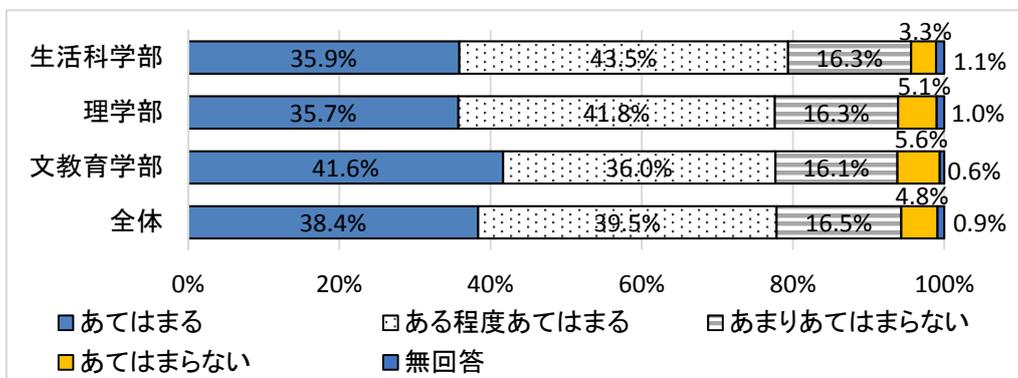
全体では、「授業についていけるか」を不安に思う割合が 77.9% と最も高く、「友達ができるか」73.5%、「充実したキャンパスライフを送れるか」71.0%がそれに続く結果となっている。この傾向は平成 27 年度新入生とほぼ同様である。



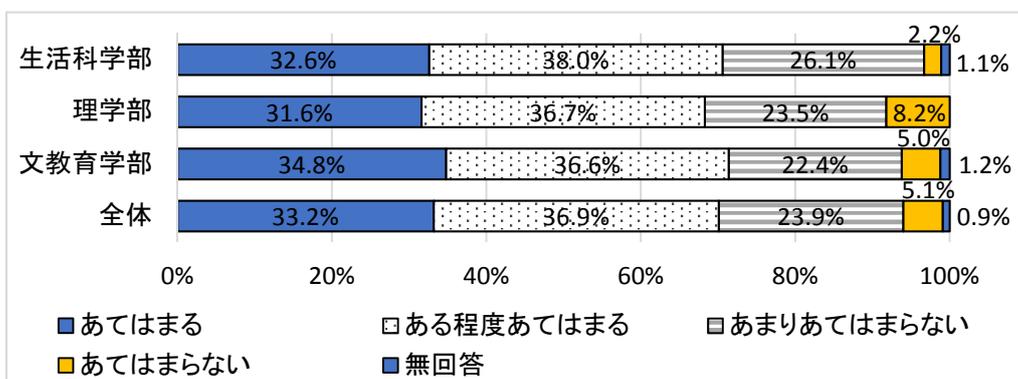
図表 4-10 充実したキャンパスライフを送れるか



図表 4-11 友達ができるか



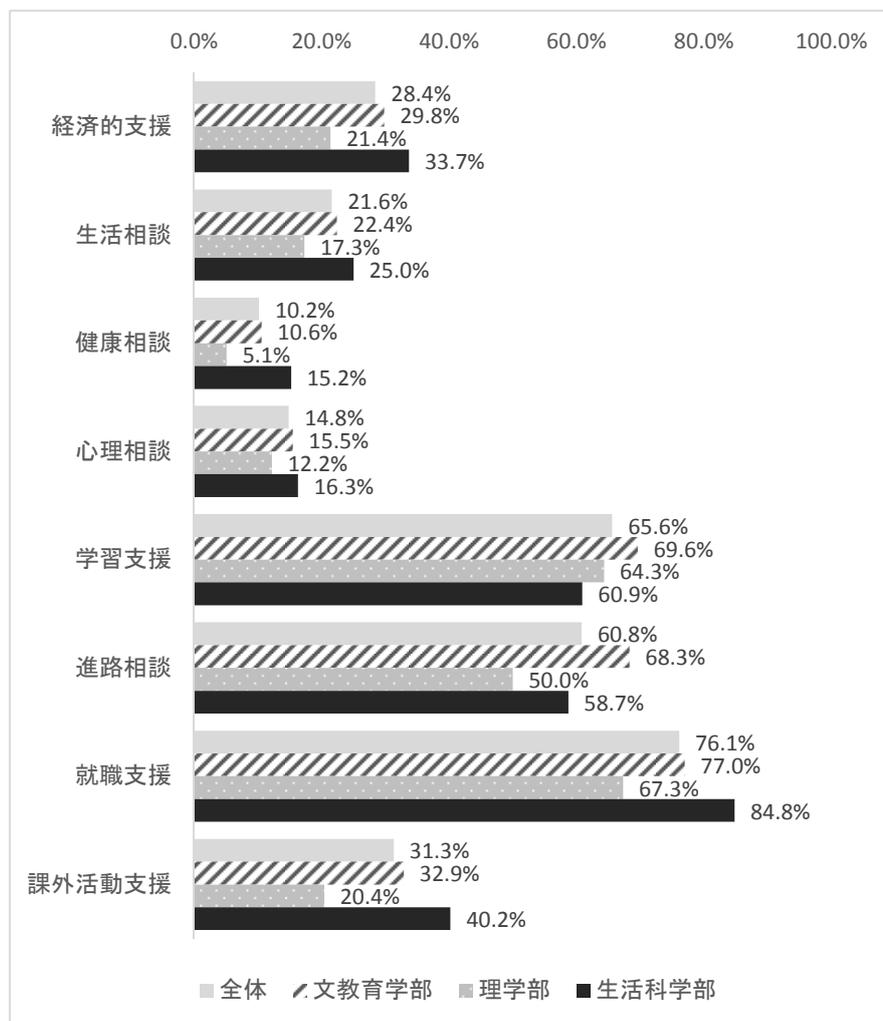
図表 4-12 授業についていけるか



図表 4-13 卒業後ちゃんと就職できるか

⑩ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-14 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「就職支援」が 76.1%と最も高く、次いで「学習支援」65.6%、「進路相談」60.8%となっている。学部別では、文教育学部は「学習支援」を期待する学生が 69.6%と、全体より高い割合である。生活科学部は「経済的支援」33.7%、「生活相談」25.0%、「健康相談」15.2%、「就職支援」84.8%、「課外活動支援」40.2%と全体に比較して高い割合の項目が多いことから、大学に支援を期待している学生が多いことがうかがえる。



図表 4-14 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

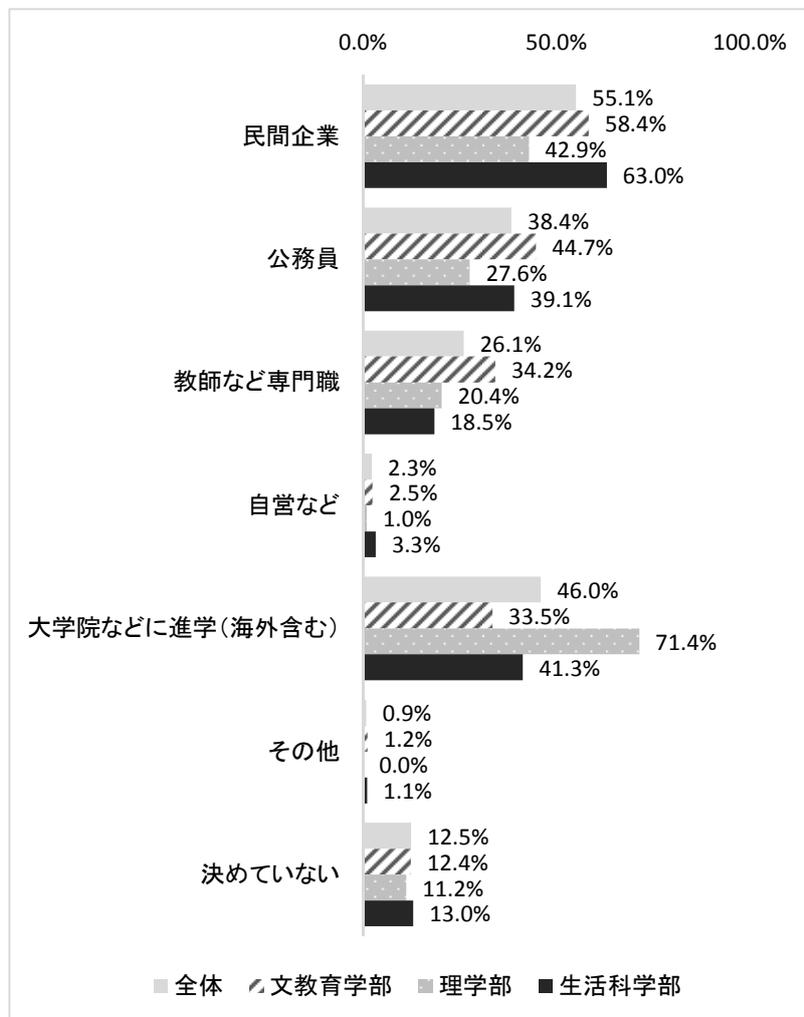
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業に就職する」が最も高く 55.1%、「大学院などに進学する（海外含む）」がそれに続いて 46.0%であった。ただし「大学院などに進学する（海外含む）」は学部による差異も大きく、理学部では 71.4%であるが、文教育学部では 33.5%程度であった。これらの傾向は、平成 27 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。

平成 28 年度新入生は「公務員になる」が全体の 38.4%と昨年度の 32.8%に比べて 5.6 ポイント多いことが特徴であり、これらの進路希望に続くが、学部により差異も大きく、文教育学部では 44.7%を占める一方で、理学部では 27.6%にとどまっている。



図表 5-1 大学卒業後の進路希望

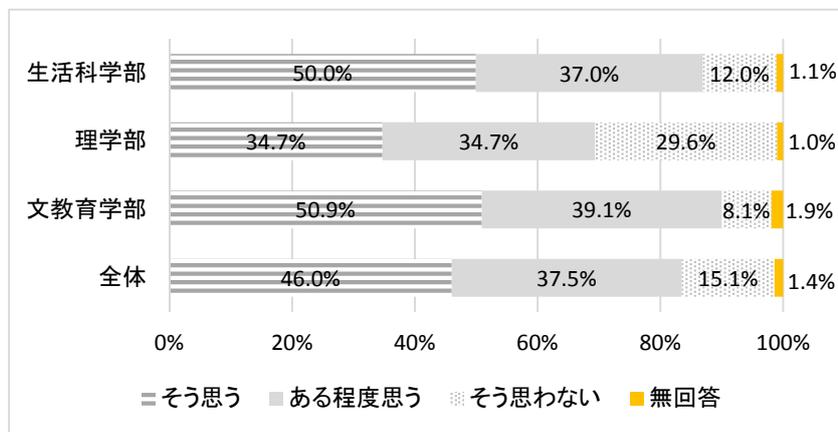
② 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ねた結果のうち、6項目の結果を図表5-2から図表5-7に示す。

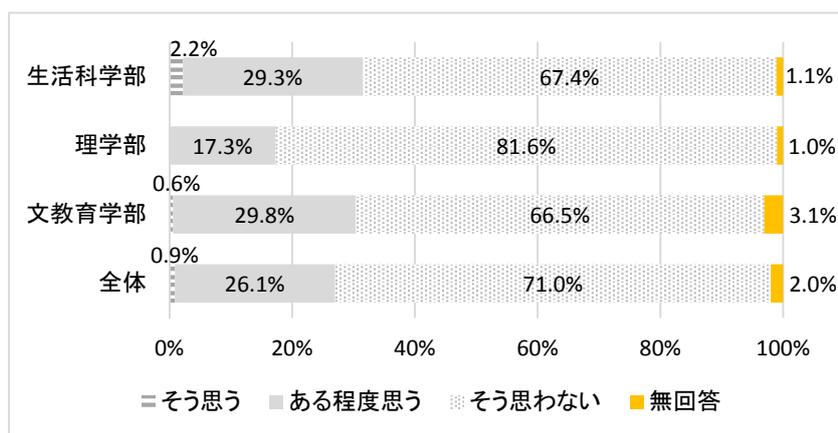
図表5-2から図表5-5は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は83.5%である。一方で「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」の該当率は27.0%である。この結果は、これまでの新入生と同様の傾向であり、新入生が大学卒業後すぐに正規雇用を志向していることがうかがえる（お茶の水女子大学 2016）。

「すぐに大学院などに進学する」の全体での該当率は62.8%である。特に理学部が高く、理学部の該当率は83.6%であり、これまでの新入生と同様である（お茶の水女子大学 2016）。

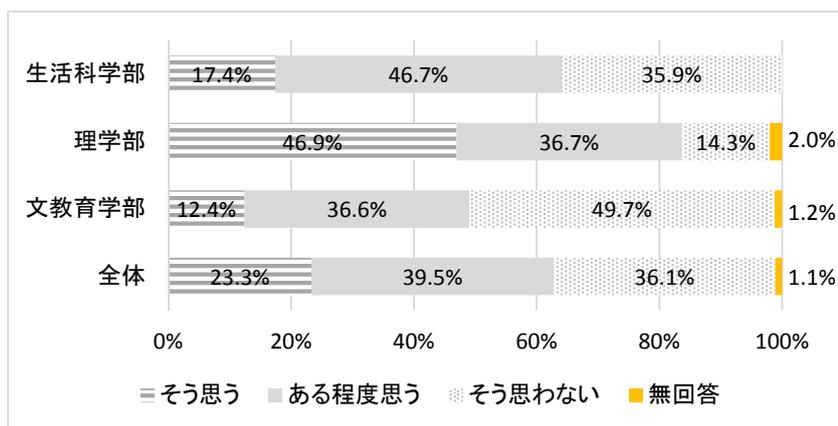
「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」は、全体での該当率は32.1%である。特に生活科学部39.1%と文教育学部36.1%での該当率が高く、理学部では低いことが特徴である。



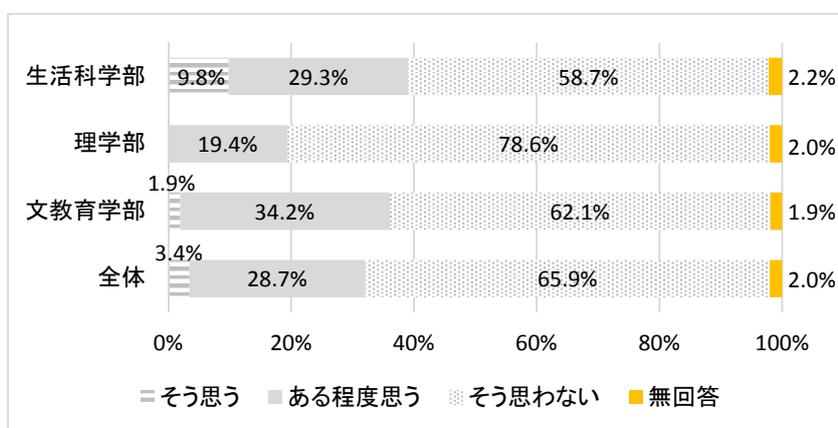
図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



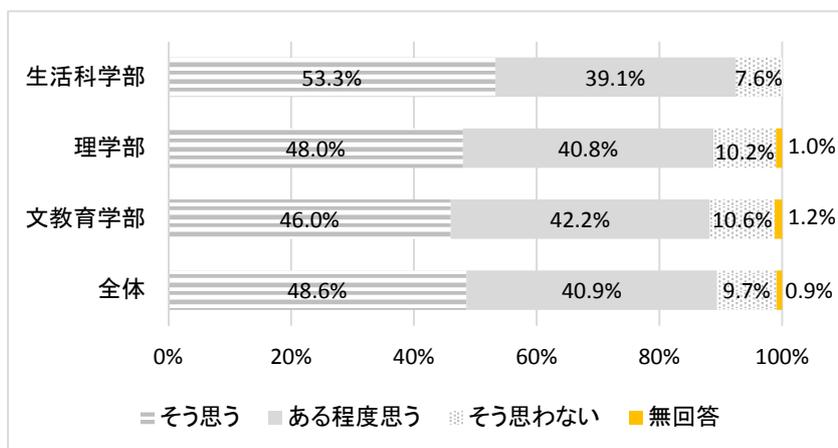
図表 5-4 すぐに大学院などに進学する



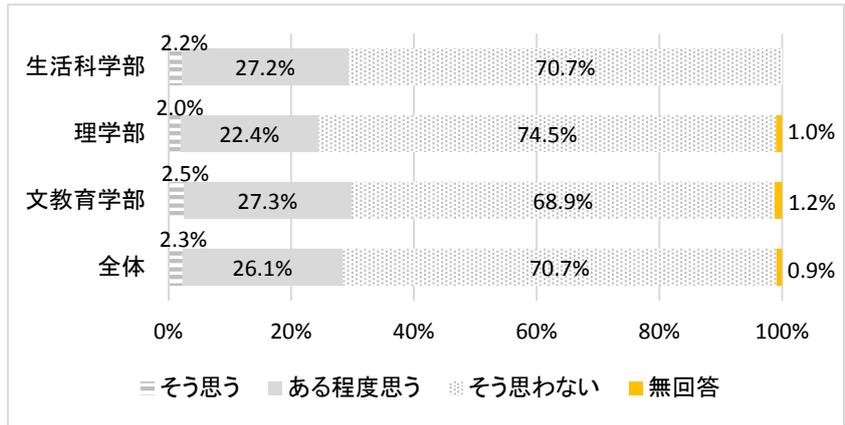
図表 5-5 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない

次に図表 5-6 と図表 5-7 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた結果である。

いずれの項目も学部による大きな差異はみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」に該当する人は全体のおよそ 9 割に及んでいる。「結婚・出産したら仕事をやめる」の該当率は 28.4% であり、「そう思わない」に回答した人は全体では 70.7% である。特に理学部では、74.5% と他学部と比較して高い割合であることから、理学部の新生は、入学時から職業を継続する意思をもつ割合が高いことが示されている。



図表 5-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



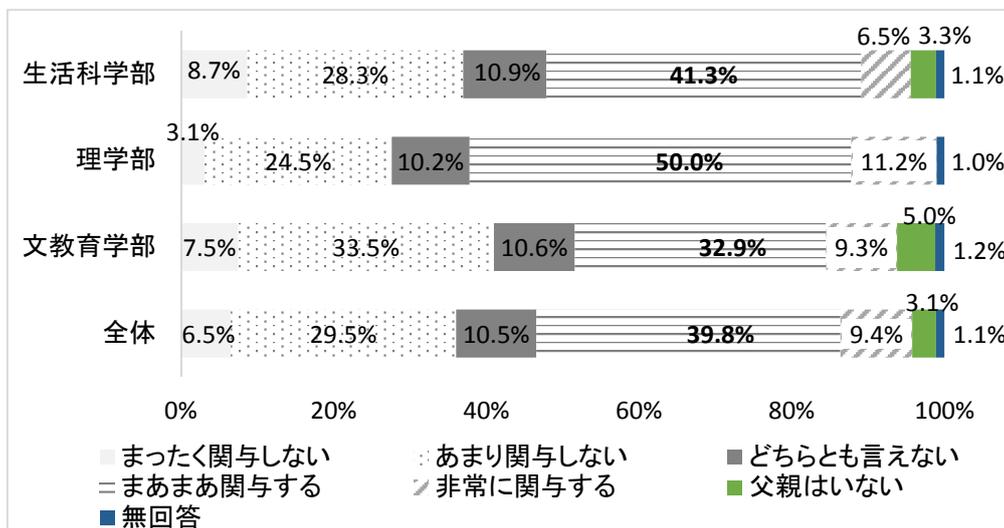
図表 5-7 結婚・出産したら仕事をやめる

③ 就職や将来に関する親の関与

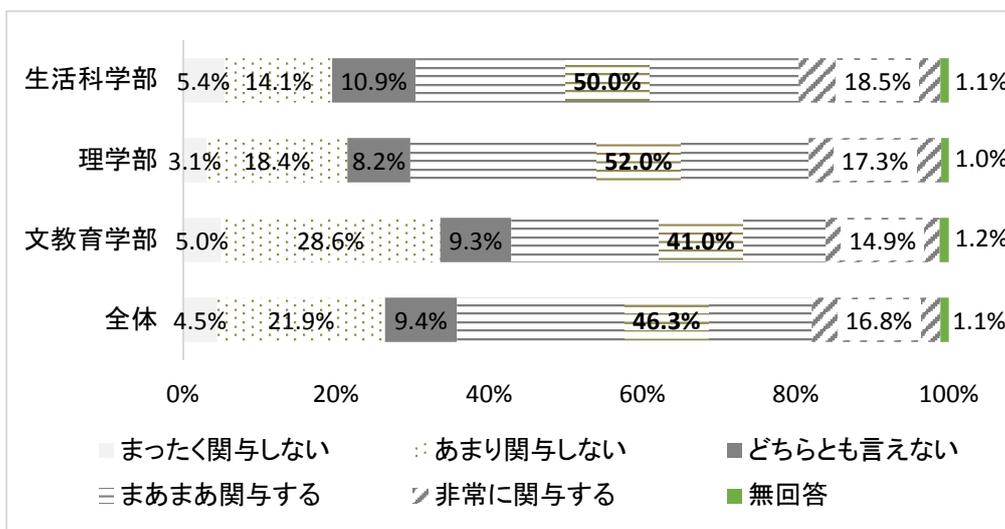
就職や将来に関する親の関与について 5 件法で尋ねた。図表 5-8 に父親の関与についての結果を、図表 5-9 に母親の関与についての結果を示す。

平成 28 年度新入生は、就職や将来のことに関して、全体の 49.2%に父親の関与があり（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」に回答）、全体の 63.1%に母親の関与がある。平成 27 年度新入生では、全体の 48.2%に父親の関与があり、全体の 68.0%に母親の関与があるという結果であったが、平成 28 年度新入生では母親の関与があると答えた割合が昨年よりもやや少ない。（お茶の水女子大学 2016）。大学卒業後の進路に対する支援活動については、保護者への進路支援活動の説明および保護者が進路選択に果たす役割などについて、大学から情報を提供することが有益であることが考えられた。

学部別では、平成 27 年度新入生では、理学部で父親が関与する割合が 51.3%とやや多く、生活科学部で母親の関与の割合が 72.2%を多いことが示された（お茶の水女子大学 2016）。本年度は、理学部で親の関与する割合が高く、父親の関与する割合が 61.2%、母親が関与する割合も 69.3%と他学部比べて高いことが特徴である。



図表 5-8 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-9 就職や将来のことに関する母親の関与